

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (272)

萩

散歩から帰って、お父さん・タモツ君・エミちゃんが話しています。

「エミ、花や草という漢字は習ったね。」と、お父さん。

「うん。草も花も習ったよ。」

「大昔にね、秋の草だからって、クサカンムリに秋で、萩という字を造った人がいた。」

「エミは、まだ秋っていう字、教わってないよね。学校の校のキヘンの上に片仮名のノをつけたノギヘンに火という字。」と、タモツ君。

「そうか。そのクサカンムリにノギヘンに火の字は、もう中国で造った人がいたんだ。でも、日本の秋の草花のハギではなくて、草もちにするヨモギの仲間のカワラヨモギのことなんだって。エミの造った三や冊だって、ちょっと造るのが遅れただけさ。」と、お父さん。

「わかった。もっと早く造ればよかったんだね。」と、エミちゃん。

「萩」



中国ではカワラヨモギを指す



日本ではハギを指す

「萩」のように、漢字本来の意味と一致しない、日本独自の読み方のことを「こっくん国訓」というんだよ。

